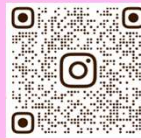




Hello, Hong Kong!

宮崎縣香港事務所通信
2024年7月 vol.16



香港国際旅游展(ITE)に出展

6月13日から開催された香港最大の旅行展示会に出展しました。香港は訪日経験10回以上の方の割合が3割を超え、2位の台湾を9ポイント近く引き離してダントツの1位（訪日外国人消費動向調査2019年）。リピーターが非常に多い市場です。ただコロナ禍明け後、その7割近くは東京、大阪などのいわゆるゴールデンルート行き。この状況を盛り返そうと本県を含む多くの地方自治体・事業者が各地の魅力をアピールしました。

一般開放日となった土日、日本ブースエリアは大混雑。宮崎ブースでは青島の幸せの黄色いポストを再現。枚数限定で絵葉書をプレゼントし、自分自身や家族・友人へのメッセージを添えた投函してもらいました。（はがきは後日青島のポストから記載された住所に送られます。）

「これはどこなの?」「どうやったらいいですか?」と熱心に質問してくる来場者も。めずらしい日本のポストにカメラを向ける方も続出しました。



日本エリアのにぎわい



本県ブース



青島の黄色いポストを再現



メインステージでPR



香港から2校が研修旅行で来県

香港の学校が夏休みに入った6月、香港中文大学専門進修学院と保良局李城璧中学（日本でいうと高校に相当）の2校が本県へ研修旅行へ出かけました。

香港事務所では、学校交流や農家民泊など、香港の旅行会社では直接手配することがが難しいプログラムについて、宮崎の各機関と調整にあたりました。

また、旅行前には学生向けのセミナーで本県の概要や農家民泊について説明。「農家民泊には歯ブラシを持っていった方がいいですか?」「どんな服装で行ったらいいですか?」など質問が飛び、わくわくした気持ちがこちらにも伝わってきます。

両校はそれぞれ西都市・高千穂町で2泊ずつ農家民泊を体験。ほとんどが都会の高層集合住宅で育った学生。日本の田舎は新鮮で、勉強になったことでしょう。



【香港中文大学】大宮高校生と宮崎神宮参拝（左上）、宮崎大学での授業（右上）
日南方面観光（左下）、西都市で農作業体験（右下）



【李城璧中学】事前の学生向けセミナー（左）、宮崎南高校との学校交流（右）





本県産水産物の試食提案会

4月、香港内の料理人を集めた県産水産物の試食提案会が行われました。

当イベントは、昨年度実施した香港料理人の宮崎招へい及び香港レストランでのフェアがきっかけとなり、本県の水産物販売事業者と香港の食材卸売事業者との連携で実施されたものです。

当日は香港料理人や食材卸売事業者 約30人が参加。宮崎からは水産物販売事業者が来航し、水産物の説明や血抜きの実演、カンパチやカツオなどの試食が行われました。

試食をした料理人からは「とても美味しい」「店舗での提供やプロモーションを検討したい」など前向きな意見も聞かれました。

今回の試食提案会は、多くの料理人の参加があり、大きな盛り上がりとなりました。産地から香港へ事業者が来航し、実演や試食を行うとともに、事業者と料理人とで直接意見交換できたことが成功要因だと考えています。

本取組は、他の品目や事業者の参考になるのではないのでしょうか？



水産物の説明



血抜きの実演



カンパチ、カツオなどの試食



香港 Italian Tomato みやざき完熟マンゴーケーキフェア

5月下旬、香港Italian Tomatoと連携し、みやざき完熟マンゴーケーキフェアを実施。香港内のItalian Tomato 24店舗において、約2週間、本県産完熟マンゴーを使用したケーキが販売されました。

1ホール(21cm)で約12,000円という高価格ですが「おいしい」と好評でした。



完熟マンゴーケーキ



香港日本料理店協会で マンゴー・へべすの試食会

香港内の日本料理店や日本料理店と取引のある企業等で構成される香港日本料理店協会の定例会において、本県産食材の説明・試食会を実施しました。

4月にはマンゴー、6月にはへべすを紹介。

マンゴーについては、「とても美味しい」と好評で、試食会後に複数の注文もいただきました。

へべすについては、「初めて知った」「初めて食べた」という方がほとんどでしたが「とても香りが良い」と大好評でした。



完熟マンゴーの試食



へべすの試食



飲茶で一息

香港に住んで3か月。少しずつ足を伸ばしてあちこち行けるようになってきました。香港には実にいろんな交通機関があり、地下鉄、2階建てバスはもちろん、フェリーやトラム(路面電車)など選択肢が多数あります。

その中でも、街の毛細血管のような細かい路線網を誇るのがミニバス(小巴)です。マイクロバスを愛想がよいとはいえない運転手がガンガン走らせます。次の駐車場のアナウンスも降車ボタンもありません。降りる方法はただひとつ。目的地が近づいたら「〇〇で降ります!」と後ろから大声で(しかも広東語で)叫ぶしかありません。



言語力も土地勘も乏しい私たち外国人にとっては最難関の乗物。いつか華麗に乗りこなす日を夢見て、日々精進しています。(坂)